

題名：「考える」重さを貴方は「知っている」か

静岡県 牧之原市立相良中学校 三年 今駒 もあ

ピアノの使命は、演奏されること。椅子の使命は、座られること。では、人類の使命は何だろう？私達がこの時代に誕生した意義とは？この問いに貴方はどう答える？迷わず答えが出た人もいれば、問いの意味が分からない人もいるだろう。この問いに正答出来る人は誰一人いない。だって、この問いに答えはないから。冷静に考えてみてほしい。この問いに答えがあるなら、それは私達が勝手にこじつけた理屈だろう。

私が伝えたいのは問いに答えがないということでない。また、憶測だが、「考える」これがこの問いの答えの鍵になると思う。異論は認める。だが、現実的ではないだろうか。創造の技術も言葉も生き方も全て後天的に身についたものだ。しかし、「考える」という行為はどうだろう。ずっと昔、人類が誕生したばかりの頃を想像してみてほしい。携帯はもちろん、服、家、食料など何もない時代であった。その中で人類は何をしたのだろうか。お察しの通り、「考えた」のだ。先天的に与えられ、何もなかった時代に唯一出来た「考える」という行為を駆使したのだ。相互理解のために言葉を考え、文字を生み出した。生きるために、動物を殺した。毒があるかもしれない雑草を恐れることなく食べた。何も「知らなかった」から恐れずに雑草を食べた。だが、生きるために雑草を食べたのに、無知が故に命を落としてしまった。私が伝えたいのはこういうこと。つまり、考えるために学べ。知識を得ろ。これは任意ではなく必須だ。ここで質問。

「勉強」と「知識を得ること」のちがいを知っているだろうか？大半の人がどちらも同じ意味と思うだろう。だが、似ているようで全く違うのだ。勉強は、自分の進路を決めるためにすること。だから、勉強をしてもしなくても正直どちらでもいいと思う。進路は自分が選ぶものだから。知識を得ることは、「考える」という行為を行うための原料だ。知識を得るという行為は大変楽しいが、扱いに気を付けなければならない。なぜなら、知識一つで、人生が変わってしまうことがあるからだ。実際、私は体験したのだ。人生が変わる瞬間を。私は医者になりたかった。十四年間ずっと。だが、同時に天文学が好きだった。いや、愛している。底が知れないぐらいに。幼い頃は、星座を知らなかった。だから、星座の存在を知った時、興奮した。いつもの空が違って見えた。目に光が入った気がした。疑問を追究し、知識を得るたび、私の目から見える世界が変わっていく。気付いた時には、天文学者になることを夢みていた。感動してしまった。目の悪い私に星がみえたことに。

歴史を学ぶべきだ。話の流れから、歴史は勉強と思うのが普通だろう。だが、それがそうとも言い切れない。私達は二十一世紀に生きている。ということは、十世紀にも、一世紀にも、人類が誕生してからずっと、生きていた人がいるのだ。当たり前のことだが、話はここから。彼らが未来に繋いできたことは何か。宝でも、命でもない。「感動」だ。人類が唯一できた、考えること。考えるために必要な知識。この二つの融合によって生まれたのが感動。先人が遺してくれたから、今がある。携帯も、服も、家も、食料も。

私達は今という歴史を作っている。歴史という一本の道を全人類が歩いている。その先頭に立っているのが私達だ。例外はない。すごい人も、凡人も、この話に興味がない人も、八十億人全員に関係がある。なぜなら、全歴史が私達をここへ導いたから。先人が、感動を遺したから。今の物語の主人公は私達だから。地球が誕生してから約四十六億年。地球規模から見ると私達はたった一瞬の存在だ。だからこそ、私達が出来ることが、考え、感動を残し、私達が歴史となること。そして、私達の前に立つ未来人の背中を押すこと。

最後の質問だ。ピアノの使命は、演奏されること。椅子の使命は、座られること。では、人類の使命は何だろう？私達がこの時代に誕生した意義とは？さて、貴方はどう「考える」？